

平和台図書館 図書館利用者懇談会

- 1 日時 令和6年11月3日（日祝）第一部：14時～15時 第二部：15時15分～16時
- 2 場所 第一部：平和台図書館 3階会議室 第二部：平和台図書館 1階ロビー
- 3 出席者 利用者 12名（第一部：10名 第二部：8名）
図書館 4名
（平和台図書館長、副館長2名、地域連携事業担当者）
- 4 テーマ 第一部：「平和台図書館の事業報告と展望
一理想となる地域連携を目指して一」
※図書館関連団体や近隣施設を主な対象として
情報共有およびより良い連携に関する意見聴取を目的とする。
第二部：「一緒に考えたい！平和台図書館活用法」
※個人利用者を主な対象として、
具体的な図書館サービスについての意見聴取を目的とする。
- 5 配付資料 （1）平和台図書館事業紹介（令和5年度下半期～令和6年度上半期）
（2）平和台図書館まちあるきマップ
（3）へいわだいだより（一般向け広報誌）令和6年11月号
（4）令和6年度 練馬区立図書館利用者アンケート
- 6 次第 第一部
（1）平和台図書館長挨拶
（2）図書館職員と参加者の自己紹介
（3）図書館事業報告と懇談
第二部
（4）ねりまふるさと紙芝居の実演（図書館職員による）
（5）懇談
（6）平和台図書館長挨拶

平和台図書館利用者懇談会 会議録

〔第一部開始〕

1 平和台図書館長挨拶

それでは定刻となりましたので、令和6年度平和台図書館利用者懇談会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。まずは年度途中ではありますが、皆様のご支援のおかげで平和台図書館は令和6年度も無事に運営することができており、今年度も残り半分となりました。令和7年度に向けても新たな連携を計画しておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

今回の懇談会も二部構成です。第一部は午後2時から午後3時までの1時間を予定し、こちらの会議室で実施します。第二部は1階のロビーで実施します。移動時間15分を挟み、

午後 3 時15分から午後 4 時までの実施です。

本題に入る前にまずは事務連絡をさせていただきます。練馬区立図書館全12館 1 分室の懇談会の会議録、いただいたご意見の概要、参加者アンケートの結果は、後日、個人名などを伏せた形で図書館ホームページにて公開させていただきます。そのため本日の懇談会の発言を録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。よろしくお願いいたします。

また当懇談会では練馬区立図書館全体に関する質問など、その場ではお答えしかねる場合もございますのでご了承ください。11月22日には光が丘図書館にて利用者懇談会が開催されます。練馬区立図書館全体に関するご意見をお持ちの方は、よろしければご参加ください。

2 図書館職員と参加者の自己紹介

図書館職員→参加者の順で自己紹介を行う。

図書館職員：館長、副館長（一般向け・障害者向け事業担当）

副館長（予約担当、電算担当）、地域連携事業担当者

参加者：着席順に団体名・出席者名の簡単な自己紹介

3 図書館事業報告と懇談

図書館 これまでは図書館側からまず事業報告全体を話し終えてから、皆様からご意見を伺っていましたが、今回は趣向を変えて、順番に出席団体の皆様にお話を振っていきます。その際、実際の連携内容をスライドでお示ししながら、都度意見を頂ければと思います。もちろんスライドの内容と異なるお話でもかまいません。またお手元の配付資料「平和台図書館事業紹介」はあくまで補足資料としてご覧ください。中心は皆様のお話とスライドの内容です。

※各団体との連携事業を説明するスライドをお見せしながら進行する。

図書館 まずは平和台ブックスタートの会さんを紹介します。ブックスタートという言葉自体初めて耳にする方もいらっしゃるかと思います。ブックスタートというのは絵本をプレゼントすることで、赤ちゃんとゆっくり心が触れ合える時間をつくっていただくことを目的とした事業です。練馬区では平成14年に発足し、図書館・保健相談所・ブックスタートの会が協力して実施しています。平和台図書館では毎月 3 回ほど木曜日・日曜日に実施して好評な事業となっております。スライドでお見せしているのは、練馬区立図書館ブックスタートの会が令和 5 年度に国から受賞した「子供の読書活動優秀実践団体に対する文部科学大臣表彰」の賞状です。令和 4 年度は練馬区のブックスタートが20周年記念にあたりましたので、それをお祝いする展示を 2 階通路で実施しました。

利用者 平和台ブックスタートは、月 3 回ほど第二・第四木曜日を中心に10時30分～11

時まで実施しています。練馬区では12館図書館があり、それぞれの図書館でブックスタートは実施していますが、平和台図書館は特に参加者数が多いです。平日は各館7組くらいの参加者数なのですが、平和台図書館では10組を超えることもあります。先日は18組の参加がありました。

ただ平和台図書館はちょっとわかりにくい場所にありますので、道に迷い、開始時間ぎりぎりになって到着する参加者の方もいらっしゃるので、参加する皆様にわかりやすい地図などを用意できたら、と思っています。

図書館 確かに駅から比較的遠く15分ほどかかり、立地がわかりにくい点は以前から指摘されていますね。ちなみに各施設・団体で施設にたどり着く道案内などを対象者ごとに作成されていますか。児童館さんはいかがでしょう。

利用者 年に1回「練馬こどもまつり」にて、区内17館と1室ある児童館等と、地区区民館が合同でラリーを実施しています。それぞれの館で遊んだ後、違う館に行くなど、2施設以上を回ると、景品がもらえる企画です。そのとき平和台児童館から氷川台地区区民館だったり、北町児童館だったりに子どもたちをいざなうのですが、そのときは我々（児童館職員）が事前に実際に歩いてみて、ここが目印、ここが目印…とチェックしていきます。この横断歩道は長い間点滅しないなど安全に行けるルートを地図に落とし込み、子どもたちに渡しています。けっこう大変な作業量なので、余裕のある年は5館、余裕のない年は3館など柔軟に対応しています。イルカが壁から出ている建物など特徴のある目印があったりすると、子どもたちも楽しめるようです。そのような工夫を行っています。

図書館 素晴らしい。ありがとうございます。事業を実施しながら、その記録が次の案内にもつながるというのは素晴らしいですね。勉強になりました。

利用者 歩きながら、職員が「ここがいいかな。ここがいいかな。」とけっこう職員同士も目線が違うので、書いたもので歩いてみると全然わからないこともあるんですけど…。

図書館 それでは続いて、布で絵本を作る会たんぼぼさんです。まず布の絵本の現物を図書館の担当職員が実際にお見せします。

図書館 2階のこどもコーナーの棚に素敵な作品がたくさんあります。平和台図書館は所蔵数も多く、きれいなものもたくさんあるので、お子様たちがカーペットの部屋で作品を広げて楽しんでいる姿をよく見かけます。

＜参加者に作品をお見せしながら＞

こちらが布の絵本です。柔らかい布でできていて、小さなお子様を読みやすく、色々な工夫がなされていて、遊びの要素が取り込まれています。こちらの作品は「色を覚える」をテーマにした作品で、穴をのぞくと色の付いた布が出てきて、色についての勉強ができます。勉強にもなり、お母さんといっしょの遊びにもなります。他の作品には、靴ひもを結ぶ仕掛けがあったり、取り外せる部品があったり、付けたり外したり遊びの要素がたくさんあるの

が布の絵本の特徴です。会場後方に展示しておくので、ぜひご覧ください。
2階こどもコーナーにもぜひお立ち寄りください。

利用者 その本は図書館の中で見るのですか。貸出はしていないのですか。
図書館 貸出をしています。2点まで2週間借りられます。大人の方もぜひご覧ください。

図書館 布の絵本の周知の目的で、以前1階ロビーで特設展示を行いました。布の絵本作品の展示の他、2階こどもコーナーで毎月入替し展示している季節のタペストリーを12か月分まとめて一齐に1階ロビーに展示したり、会員の方に来館者の前で実際に作品を製作してもらったりするなど工夫して実施しました。

利用者 布の絵本を作る会たんぽぽです。いま図書館の方にとっても上手に説明いただきました。図書館の皆様に良くしてもらっていて、ここの会場で、毎週水曜日の午前中に月4回活動しています。11人くらいで和気あいあいと活動していましたが、ベテランの会員にはお年を召した方もいらっしゃるので、新しい方を募集しようということになり、今月から人数を増やして新たに活動することになりました。先ほど紹介のあった『このいろなあに』は専用のキットがあって、それを基に作ります。他にもオリジナルのものを作ったり、絵本を基に作ったりして、それぞれ皆楽しみながら作っています。年に5作品を完成させています。あとはクリスマスイベントのお手伝いをしています。

図書館 お手伝いというのは、平和台図書館の行事「ふゆのおたのしみ会」において参加者に配るプレゼントを、たんぽぽさんには作ってもらっています。

図書館 各図書館には布の絵本製作サークルがあります。年に1回どこかの図書館で布の絵本製作講習会を実施しています。今年度は平和台図書館が会場で、申込開始間後すぐに定員に達するなどたいへん盛況でした。講習を経て、参加者の何名かはたんぽぽさんに加入することが決まりました。引き続きよろしく願いいたします。

続いて平和台体育館さんです。スライドでお見せしているのは、平和台体育館の非利用者に対するアンケートを、平和台図書館で実施した時の様子です。一昨年度から継続して協力しています。

利用者 平和台体育館の館長です。よろしくお願いいたします。なかなか図書館とスポーツとはイメージが結びつかないと思いますが、前任の館長も、平和台図書館の利用者懇談会に参加させていただき、指定管理者同士意見交換を行ってきています。またイベントの告知ポスターを図書館内に掲示させていただいたり、図書館職員の方に実際にイベントに参加者として参加してもらったり様々な形で交流を図っています。

平和台体育館も場所がわかりにくく、住宅街を通ると近道ですが迷いやすいため道案内では大通りを教えるようにしています。以前いただいた「平和台図書館まちあるきマップ」をラミネートして窓口に用意し、聞かれることが多い平和台図書館への道案内に活用するなど工夫しています。

年1回のアンケートにもご協力を頂き、おかげさまで回収数は増えています。

しかし同時に施設の周知については難しさも感じています。引き続きよろしく願いいたします。

図書館

参加させていただいた車イスラグビーのイベントでは、今年開催のパリ・パラリンピックで悲願の初優勝を果たした日本代表メンバーも複数名参加していました。パラリンピックをテレビ観戦していて、「一緒に参加したあの選手だ!」と思いながら応援しておりました。素晴らしいイベントだったことを記憶しています。

続いて平和台児童館との連携についてです。スライドは令和2年3月の学童クラブ主催のスタンプラリーで、ラリーポイントとして平和台図書館が参加させていただいた時の様子です。ちょうどコロナ禍により、室内のイベントが自粛傾向にある中、屋外イベントで連携した事例です。

利用者

平和台児童館です。児童館は児童福祉法で定める「児童」にあたる0歳～18歳までが利用対象の施設です。遊びを通して子どもたちの健全育成を図る児童福祉施設です。

いま見ていただいている写真は、学童クラブのイベントの様子です。学童クラブでは、放課後の小学生特に低学年の子どもたちを学童室で預かり、お家と同じように自由に勉強をしたり、宿題をしたり、おやつを食べたり、遊んだりしてもらうという形で保育のサポートを行っております。そんな学童クラブの遠足の一環で、平和台図書館に協力をいただきました。

実はその後も平和台図書館長とは、「何かやろう。何かやろう」と話をしていたのですが…、今回はちゃんと企画書を持ってきましたので、ぜひ体育館・図書館・児童館の連携イベントを実現しましょう。

子どもたちが体育館・図書館・児童館をめぐることで、地域にそのような施設があるんだということを認識してもらう…幼児であれば保護者の方が付いて回る形で足を運んでもらい、施設の存在を知ってもらいたい、という気持ちで企画しています。今年度か来年度の頭には実現できたらいいな、と考えています。よろしく願いいたします。

図書館

ありがとうございます。ぜひよろしく願いいたします。

続いて東京少年鑑別所さんです。令和5年12月図書館サービスの説明で図書館職員が鑑別所に伺いました。実際に施設の中を見学させてもらい。図書がどういった形で配備されているかなどを見させていただきました。

その後令和6年1月に除籍資料配付会において資料提供を行いました。図書館で除籍した本を地域の団体の皆様に有効活用してもらうイベントです。

晴れて団体用の図書館利用カードも作ってくださったので、今後は貸出に向けて期待しております。

利用者

東京少年鑑別所です。なかなかなじみのないところですので、施設の紹介からさせていただきます。少年鑑別所というのは、罪を犯した少年が収容される場所ではありますが、大人でいう裁判を受ける前のひと月くらいの期間入る

施設です。全国で50カ所くらいあり、東京では練馬と昭島にあります。昭島は多摩地域を管轄しています。法務省、国の機関となります。少年自体が少なくなってきたこともあり、収容人数は減ってきていますが、ゼロにはなりません。それなりに数は入っています。

図書と少年鑑別所のつながりについてお話しします。少年鑑別所では刑務所とか少年院と同様で携帯電話などは見られません。そんな状況の中レクリエーションのひとつとして図書を備え付けなさい、と少年鑑別所法という法律で定められています。図書は重要な役割を果たしています。色々（図書館から）お声掛けをいただいたり、国の予算で図書を購入しています。大勢が見ると図書も傷んで来たり、古いものの買替が必要であったり、鑑別所職員もその点に苦労しているところです。予算も無尽蔵にあるわけではなく、図書館から除籍資料を頂くなど色々な力を借りながら、図書を幅広く備えていくことに努めています。本の冊数は確認していないので、なんともいませんが、小説類・図鑑などを所蔵しています。

収容される少年の年齢はだいたい14歳～19歳までと、中学校2年生くらいから高校生・大人に近い年齢で、発達段階からしても幅広いため、所蔵を万遍なくそろえるのは担当職員の腕の見せ所です。中学生から高校生でやむをえなく入ってくる少年もいまして、学習機会の付与として学習参考書をそろえていたりします。

そんな中、今後平和台図書館と色々な関係が出来ればいいかな、と思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

図書館

12月に図書館サービスの説明で伺った際に、提案させて頂いたのが、例えば鑑別所内図書室の資料整備のサポート、鑑別所内で展示されている入所者の制作物の図書館内での展示、図書館スタッフによる鑑別所内でのテーマを決めたよみかせなどです。また鑑別所さんから提案頂いたのが、鑑別所から職員を派遣する形での図書館での一般向け事業の実施です。鑑別所職員派遣事業は、以前7年ほど前に平和台図書館でも実施したことがありますが、ここ最近では実施していないため、今後検討していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

では続いてサークル団体氷川台歌話会さんです。こちらの会議室を会場として使用し、短歌の創作活動を行っている団体の皆様です。スライドでお見せしているのは、令和5年1月に1階ロビーで実施した「練馬つながるフェスタ」の様子です。地域団体の活動を広く周知する目的の練馬区の事業です。現在は活動場所の提供と、短歌関連の図書館主催イベントへの参加という形で、連携をさせていただいております。

利用者

氷川台歌話会という短歌会で活動しています。いま会員は8名ほどで、後期高齢者が多く、無料で使わせていただくとっても助かっております。また平和台図書館で毎年開催している、歌人・小説家の東直子先生のイベン

トに参加して、作品を講評してもらっています。参加者の若い世代の短歌作品からも良い刺激をもらっています。東先生はいまや短歌・小説の世界では有名な存在で、小説作品「とりつくしま」は娘さんにより映画化されました。そんな有名な先生を呼んでいただいて大変光栄です。

イベントに集まった方に声をかけて、1人の方に会に加入してもらい、ちょっと活気が出てきました。これからもよろしくお願いします。

図書館

いま紹介してくださったのは、「平和台短歌教室」という一般向けのイベントでどなたでも参加できる人気企画です。毎年実施しております。講師は東直子先生、娘さんは映画監督のお仕事をされています。今年のイベントは先生の体調不良により中止とさせていただきました。体調が戻られましたら、ぜひ来年度以降も継続して実施していきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

利用者

こちらこそよろしくお願いいたします。

図書館

続いて平和台一丁目町会さんです。いまお見せしているスライドは令和6年9月に実施した「おでかけかみしばい屋さん」という事業の様子です。3年に一度、平和台一丁目町会さん主催で図書館のお隣の須賀神社で開催されるお祭り「ふるさと祭り」に今回も参加させていただきました。コロナ禍の影響で、前回開催は平成30年までさかのぼり、6年ぶりの開催となり、町会の方々も開催を楽しみにされていました。前回と同様、自転車に紙芝居を載せて、図書館職員がお祭り会場に赴き、さまざまな年齢層の皆様に昔懐かしの紙芝居を楽しんでももらいました。

さらに今回は、加えて「ふるさと祭り」を周知する目的で1階ロビーで特設展示も行いました。お祭りで実際に使っている法被、提灯、大団扇などを展示し、多くの来館者にご覧になってもらいました。

こちらのスライドはお祭り会場設営時の様子です。図書館職員も参加させていただきましたが、前回開催から6年も経っているため、テントの組み立て方法なども写真などの記録をたよりにみんなで思い出しながら設営に励みました。出来上がった会場はこちらで、すごく綺麗なものとなりました。こちらは氷川神社から須賀神社に運ばれたお神輿の写真です。

利用者

「ふるさと祭り」は6年ぶりの開催で、役員内でもやるかやらないか意見が分かれ検討を重ねました。年々猛暑日が増えてきて皆様の体調面の心配もあり、さらに高齢化が進む町会内では、前回6年前に元気に活躍されていた方が残念ながら鬼籍に入られ、あの人もいない、この人もいない、という不安の中でスタートしました。最終的には、今回やらなければ次回3年後には、さらに実施が難しくなる、という意見もあり、これまでの2日間開催でなく今回は1日開催とするなど工夫しながら実施することを決めました。

当日雨が心配されましたが天気にも恵まれ、ものすごい人の入りで、焼きそば・フランクフルト・かき氷は、お神輿の巡行前に完売状態という大盛況でした。子ども達もたくさん入場し、あの狭い須賀神社が満員状態となって…。

お神輿が巡行から帰ってきたら、図書館の方が紙芝居をしてくださっていて…。座って紙芝居を楽しんでいる子ども達の姿を見たら、食べ物を買って、お神輿を引いて終わりではなく、文化的なものに触れる機会にもなっていることが感じられ、お祭りの成功を確信しました。

ロビーでの展示も、こんなにもよくしてくれて感激しました。

また3年後ですが、よろしくお願いいたします。

図書館

はい、楽しみに待っております。日頃の町会の活動、例えば朝のラジオ体操など、を紹介する展示も出来たらいいな、と先日町会副会長と話していたところです。「ふるさと祭り」はもちろん、他の面でも連携させていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

続いて仲町五丁目町会です。開進第一小学校での大きな夏祭りのお話をしてくださる、ということでよろしくお願いいたします。

利用者

仲町五丁目町会では毎年8月の最後の金曜土曜で開進第一小学校の校庭をお借りし、夏祭りを実施しています。今年も2日間にわたり実施しました。コロナ禍前は1日5000人、2日間で10000人の参加者がありました。今年は1日3700人、2日間で7400人の入場者がありました。平和台中央商店会の方々が屋台を出店し、フランクフルト・焼きそば・飲料などを手ごろな値段で販売していただきました。お祭りは非常に盛況で、当日開進第一小学校の新任の校長先生とのご挨拶の際には、お祭りに参加している小学生がそばに来てコミュニケーションを図るなど、大変和やかな雰囲気の中開催されました。ただし毎年のことではありますが、町会のスピーカーがうるさいということで練馬警察に110番通報があったそうです。しかし現場を確認した警察の方からは問題ないと言ってもらい、無事実施できました。1日目は天気がよく、2日目は終了時間間際の19時過ぎから雨が降ってきまして、参加者も自然に退場し、お祭りは大変スムーズに進行されました。今回も素晴らしい盆踊りができたな、と思っています。

若い方はなかなか町会に入の方が少ないですね。町会員になると色々な行事に参加しなければならないということで…若い方は遠慮することが多いのですが。しかし高齢者になると、能登沖の地震など、大きな災害が発生した時は、隣近所が助け合う、顔見知りになることが安全安心につながるのではないかという気がします。私も区役所の方から推薦されてNHKに出演させていただきました。高齢者で万が一震災が起きた時に、援助支援してくれる人がいますか？という内容のインタビューでした。今年の1月か2月に取材を受けて、3月に放送がありました。地域では助け合うことが大切かな、と思います。

こちらに図書館がございすけど、本を通して地域の交流を図る場として期待したいです。

図書館

図書館という場は、たくさんの年齢層・属性の方々が利用されます。本を介して、情報を介して、他の地域で活動されている団体の方々とは連携をしやす

く、効果を生みやすい公共施設だと考えています。

若い世代の町会加入に対してのお手伝いの他にも、昔の写真を図書館が預かり、紙またはデジタルでアーカイブして次の世代に残す、というアイデアについても平和台一丁目町会さんと以前ご相談させていただきました。引き続き各町会の皆様よろしく願いいたします。

続いて、本日欠席のねりまおはなしの会さんの活動を紹介いたします。「ベルではじまるおはなし会」というのは、本を使わないで、物語をよみきかせる素話・ストーリーテリングのイベントです。またバリフフリーイベント「手話付きのおはなし会」にも出演されています。手話通訳者が語りを同時通訳し、障害の有無に関わらず楽しめるイベントです。ちょうど今年12月にも「手話付きおはなし会」を実施予定です。

こちらのスライドは児童定例行事のスタンプカードです。スタンプがたまると素敵なプレゼントがもらえます。一度図書館に来てくれた子に対して、2回目・3回目の来館につながるような施策を考えて実施しています。

次は都立城北中央公園との連携についてです。公園内の防災イベントでは、防災かみしばいの実演を行いました。

さて、ここでクイズです。こちらの写真はなんでしょうか？城北中央公園に関連するものです。

**利用者
図書館**

水を貯めておくやつ…地下の。

素晴らしい。正解です。こちらは都立城北中央公園の調節池の工事現場の様子です。近年の豪雨災害でも注目されていますが、増水時に一時的に水を貯めて、水が引いたら川に水を戻すという機能をもつ防災施設です。完成までまだ何年かかる大がかりな都の工事です。そういった地域の防災施設について取材を行い、館の広報誌「へいわだいだより」に記事を掲載することで、地域住民への周知を図りました。

次のスライドは近隣の障害者福祉施設との連携事業についてです。氷川台福祉園さんはじめ近隣の8施設と支援機関のレインボーワークさんと連携し、福祉施設の紹介展示・生産品の販売を行っております。

連携事業の報告については以上となります。

一般参加のお二方にもご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

利用者

学習塾を経営しております。お子さんが主な対象ですが、私自身の考え方としては、大人も、その上のシニア世代も対象にしたいと考えています。実際に、社会人の方も2名学び直しという形で利用してくれています。コロナ禍前に、

シニア世代にお声掛けしたいと思い、区の高齢者福祉の担当に相談してみましたが、コロナ禍によりアクセスが簡単ではなく、今に至っています。

それとは別に、年中のお子様をお預かりした時には、先ほど紹介のあった布の絵本、確かおむすびの作品を図書館でお借りして、一生懸命時間稼ぎをしたりとか…。

児童館、体育館の館長さんが出席していますけど、うちの生徒の居所として、児童館・体育館の名前はよく耳にしています。それぞれのお子さんが長ずるに地域の色々な機関の皆様にお世話になっているとまざまざと感じています。そういう意味で、今日皆様とお会いできて大変感慨深く思っています。

また歳をとってきて思うのは、体の健康はもちろん大事なんですけれど、頭健康も同時に大事であると感じます。ものを考えること。ちいさいお子さんと勉強していてもそう思います。その機会を何かうまく作り出したいと思っています。高校生・大学生を教えていて、私自身も頭が活性化しているのを感じます。これはどうにかしてシニアの方にお伝えしたいとこの2、3年思っています。この図書館という知的空間に、どう上手に関わっていけるかと私自身の課題として捉えています。

今日うちの生徒さんにも出席してもらっていますが、実は第二部から参加してもらおう予定でした。しかしコミュニティでどうやって人と関わっていくか、というのを実地的に感じてもらうのにはかえって第一部から参加してもらって良かった、と感じています。お子様、保護者の方も含めて、社会との関わりは切っても切れないわけですから…。そういうものを個人個人の中でも意識していくのは大事な、と皆様方の話をきいて、つくづく思いました。今日は本当にありがとうございました。

図書館利用者 ありがとうございます。そでは続いて生徒さんのお話を…。
一言でいいよ。

利用者 私は図書館をあまり使っていませんが、児童館は小さい頃に通ったことがあります。

図書館 たしか以前映画をテーマにした図書館のイベントに参加してくれました。「海外文藝講座」というイベントに参加してくれたのを覚えています。三辺律子先生という翻訳家の方を講師に招いて、映画をテーマに色々みんなで語り合う…というイベントです。これから大学生になって、忙しくなるかと思いますが、帰ってきたら、体育館や図書館に足を運んでもらえたら嬉しく思います。

利用者 わかりました。これからもよろしく願いいたします。
利用者 がんばれ！

図書館 ちょうど第一部の終了時間となりました。

最後にお話しいただいたように、若い世代の居場所としての機能も、図書館が大事にすべきものと考えております。

その他、いままで頂いたご意見・アイディアを今後の運営にも反映させてい

きたいと思います。よろしくお願いいたします。

利用者 ちょっといいですか。私は仲町五丁目町会に入っているのですが、以前は町内回覧板で平和台図書館のイベントチラシを回したことがあるのですが、今は町会にチラシを配付していないのでしょうか。

図書館 たしかに、最近は平和台一丁目町会さんのみにチラシ送付することが多かったですね。今後は仲町五丁目町会さんへの配付も検討させていただきます。

利用者 ぜひぜひ私たちの町会にも回してください。

そうだ、一言いいですか。せっかくの機会なので…。今回少年鑑別所の職員の方もいらっしゃっています。以前私は30年ほど保護司をやっていました。もう定年になったのですが。少年鑑別所には心理の専門の方がいますので、非行・精神的に問題のある子を抱えている方は、ぜひ心理相談室に相談してみてはいかがでしょうか。職員の方にお話ししていただいた方がいいんじゃないでしょうか。

利用者 少年鑑別所の機能は3つあります。ただ閉じ込めておくだけではないです。なぜ事件が起きたのか、という「鑑別」をする機能、私が携わっている「看護」、在所者の面倒を見る機能、もうひとつ私達がもっている心理的・教育的な知識を社会に還元しようという機能、「地域援助」という機能があります。非行など何かしらの問題に直面した方々に対して、心理相談を受付しています。来てすぐに面接はできませんが、状況を聞いてスケジュールを組んで定期的に面接などを行っています。また学校などへの出前事業、講演会の実施も行っています。何かあれば協力させていただきます。よろしくお願いいたします。

利用者 説明どうもありがとうございました。

図書館 それでは皆様ありがとうございました。第二部に参加される方は、参加者アンケートをお持ちになって、案内の職員といっしょに1階ロビーに移動をお願いします。第一部でお帰りになる方は、参加者アンケートを回収させていただきます。よろしくお願いいたします。

〔第一部終了〕

〔第二部開始〕

図書館 皆様第二部のご参加ありがとうございます。それでは利用者懇談会の第二部を開始します。第二部から参加する方もいらっしゃるかと思いますので、改めて事務連絡をさせていただきます。

今から話す内容は録音し記録させていただきます。個人情報伏せる形で、来年3月くらいに練馬区立図書館のホームページで公開予定です。よろしくお願いいたします。

図書館 まずは図書館の資料の紹介を兼ねて、紙芝居をひとつ読ませていただきます。図書館では郷土に関する紙芝居をいくつか持っていますが、その中のひとつ『照姫物語』を読ませていただきます。

4 ねりまふるさと紙芝居『照姫物語』の実演（図書館職員による）

図書館 ありがとうございました。照姫伝説についての紙芝居でした。私は家が石神井公園の近くなので、たまに行って池を見ると、この物語を思い出します。2階のこどもコーナーには、子供向けの紙芝居だけでなく、高齢者向け、練馬区の伝承を基にしたこのような紙芝居も用意していますので、なかなか大人の方一人で行くのは気が引けるというのもあるとは思いますが、そこはお気になさらずに、ぜひ足を運んでもらいたいと思います。

5 懇談

図書館 それでは懇談を始めます。第二部では日頃図書館を使っていて感じること、あるいはふだん図書館は使わないけど、こんなサービスがあれば図書館を使いたい、という意見・アイディアをお聞きしたいと思います。

第一部参加の方からはお一人ずつすでにお話を伺っていますので、第二部から参加の方からお話をお聞かせください。

利用者 平和台図書館って改築する前はレコードがたくさんあり、有名でした。その後閉架書庫に移動の後、今は所蔵してないんですね。都内ではレコード室のある小石川図書館の次か、次くらいに多いという印象でした。そのように図書館に何か特色があるといいのかな、と思います。例えば、比較的量もあって、見やすく配架してくれている楽譜を充実させるとか…、何か練馬区以外の方にも見ていただけるものがあつたらいいな、と思います。

実は私は音楽ボランティアをやっていて、楽譜を活用させてもらっています。錦デイスターサービスで活動されている知り合いのボランティアは、ここに今あるかわからないけれど、「田村虎蔵」の「童謡唱歌名曲全集」という10巻くらいの本は閉架書庫で保管されていて、カウンターで請求してたくさん持って

きてもらうのが申し訳ない、と言っていました。検索データでは何が載っているかわからないような資料は、閉架書庫に降ろしてはいけない、と思いますね。例えば参考資料のわきにちょっと置いてもらうとか…工夫してほしいです。閉架に置いてしまっているから利用しにくい資料への配慮・工夫を行ってほしいです。

あと楽譜が1階で、唱歌関連の本が2階にあって、フロアが分かれてしまっているの、分かりやすく周知してもらえますと助かります。ご検討いただけますとありがたいです。

図書館 楽譜の閉架資料については、開架書架がいっぱいに入っていますので、すぐに増やしていくのは難しいかもしれません…。

利用者 今の状態なら無理なのはわかります。今すぐにやってほしいということではなくて、図書館の特徴のひとつとして楽譜を押し出してもいいのかな、という意見です。

図書館 承知いたしました。ご意見ありがとうございます。楽譜については古いから廃棄ということはないですね。壊れた、汚れた、で廃棄することはあります。古い資料もしっかりと取っておきます。

図書館 「楽譜があります」というアピールという観点では、一定期間展示形式で周知しても良いのかな、とお話を伺っていて思いました。

利用者 色々なところで借りますが、ここは楽譜が多いですよ。一番は小石川図書館、ぜひ行ってみてください、すごいです。

図書館 ちょうど私達が懇談している、このあたりにレコードを入れた箱があったんですよ…。懐かしく想いました。ありがとうございます。

では、続いて、高校生の参加者さん、よろしくお願いいたします。

利用者 何を話したら、いいですか。

図書館 そうですね。図書館はふだん使っていないけど、図書館のイベントに参加してくれたりしていますね。ちなみに体育館、児童館は使いますか。

利用者 体育館を使います。友達とバドミントンをしたり、ジムを使ったりしています。児童館は使いません。

図書館 ふだん図書館を使っていない方に向けたアンケートを、近隣の各施設に配布協力いただき実施したことがあります。その設問項目に、「ふだん使っている公共施設を使い始めたきっかけ（何で知ったか）」を設けました。体育館での回収の回答で多かったのが、「友達」というのがとても多かったですね。友人から紹介されて、とか友人とその場所で会うから、というような。さきほど居場所の話が出ましたが、図書館としても若い世代に対して、友人といっしょにティーンズコーナーの10代専用席をもっと使ってもらうとか、そこを居場所にしてもらう、というのを、もっとアピールしないといけませんね。

ちなみに児童館さんはいかがでしょう。赤ちゃんから18歳までという対象者の中で特に16～18歳の利用者層に対して、施設の利用率を上げる取組は何

かございますか。

利用者

高校生の利用は本当に少ないですね。体育館の卓球を待っている間に、児童館の卓球台を使って練習する、とか。ちょっと寒くなってきたので、児童館の工作室で暖を取りながらスマホをやるとか。そんな利用になっています。高校生世代を引き込むのはすごく難しいですね。

図書館は特にそうだと思いますが、静かに本を読むというのは、みんながそういう風にできるということがすごく大事だと思います。高校生年代が利用するとなると、どうしても声が出てしまう、笑い合っ利用するということに対して苦慮されているのではと思います。うちは児童館なので、大騒ぎしようが何しようが楽しそうでいいね、で済みますが…。

図書館にコーナーがある、利用しようという中で、嬉しいけど、難しいというか…。高校生たちも「声を出しちゃいけない」というのは思ってくれていると思うので。そういう意味ではすごく大変なんじゃないかなと、お話を聞いたり、図書館を見てる側としては思います。

（高校生出席者に）ちなみに、図書館を利用するとしたら、何をしますか。

利用者

あるとしたら、学校の課題とか調べものですね。ネットでなかったら、調べにくるかな、と思います。

図書館

図書館は静かであるべき、というのは確かにネックとなっていますよね。最近の図書館の傾向としては、「静」のスペースと「動」のスペースをうまくすみ分けているところが多いですね。板橋区立中央図書館、武蔵野プレイスなどはそうですね。もちろん施設面の制約はありますが、平和台図書館でも（10代専用席については）軽く相談するくらいの会話は認めています。

また10代だけでなく、こどもコーナーで見かけるのは、保護者の方がお子様に「静かにしなくちゃだめよ」と叱る姿…、静かにしなくていいですよ。こどもコーナーは他コーナーへの遮音もしっかりと効いていて、気兼ねなくコミュニケーションを取りながら使ってもらうスペースとして私達は用意しておりますので、お気遣いなく。しゃべっていいスペースと静かにすべきスペースをうまくすみ分け、それをうまく周知していきたいと考えています。学校の課題での利用も、図書館資料を参考資料として利用して、席を使ってもらうのは歓迎なので、ぜひご来館ください。体育館も使ってくださいね。

第二部から参加している方にはお話が聞けましたので、第一部から参加している方にもお話を伺っていきます。

利用者

質問があります。まだ発行していない本を予約すると、しばらくすると準備中になり、その後ご用意できました、という状態になりますが、その間の期間がけっこう長いですね。目安としてはどれくらいの期間で、どのような理由でそうなっているかを知りたいですね。この前のは2、3週間かかったかな。

図書館

おっしゃるとおり発売が決定していれば、その段階で予約を受付できます。例えば12月1日発売の本だとしたら、12月1日以降に図書館に本が納品され、

その後専用のフィルムを貼付するため作業所に本を送ります。それに1週間ほどかかります。平和台図書館だと毎週水曜に送り、翌週の水曜に装備されて戻ってきます。例えば本が木曜に納品された場合、装備に出すのは翌週水曜になるため、本によって、1週間～2週間の準備中の状態が発生します。そんな中なるべく早く出せるように努力はしています。

利用者 続けていいですか。孫がおはなしコーナーをよく利用させてもらっています。すごく楽しんでいます。出来れば子どもが興味を示しやすい大型の絵本を読んでもらえますと嬉しいです。エプロンシアター、パネルシアターも子どもがすごく喜ぶので、もっとやってほしい、という意見も預かりました。また図書館にしかない本とか紙芝居を、よみきかせの中で知ることになり、とても良い機会になるということで喜んでいました。さきほど布の絵本の話をお伺いしましたが、あるお母さんは布の絵本の存在を知ってから、ご自身で買ってお子様と楽しんでいる、とのこと。先ほど第一部で貸出しをしているか質問したのは、そのような話を聞いたためです。貸出できるんですね、2点まで。ただし、汚しちゃうと、どうかな…。難しいですね、赤ん坊って。

図書館 小さなお子様に本を提供する時、お母さまはそういうことを心配されると思いますが、次の方に使ってもらうためにも、一定の配慮は必要です。布の絵本などは、図書館側で洗濯をして対応することもあります。なかなか落ちなくて…。やはり赤ちゃんが口に入れてしまう可能性もあるので、きれいな状態でないと、次の方が逡巡されると思うので…。いろんなことがありますよね、小さなお子様は…。本は大事にしようねということをお母さまが教える機会としても捉えてもらえればと思います。

利用者 そうですね。わかりました。ありがとうございます。すごく楽しみに来ていますよ。

図書館 エプロンシアター・パネルシアターは定例行事以外の行事で実施しております。
利用者 スケジュールはあるのでしょうか。

図書館 例年夏と冬のおたのしみ会で、実施しています。毎年、区内で活動している人形劇団、パネルシアターの劇団に出演してもらっています。さらに、図書館の中庭を活用した「おそとでおはなし会」というイベントでは大型の絵本を使っていますね。大きい絵本は確かにインパクトがありますよね。お話を聞いて、定例行事でももっと使ってもいいのかな、と思いました。

利用者 ホームページでは告知されていますか。

図書館 図書館のホームページで告知をしています。読書週間に実施する「スペシャルおはなし会」でも普段と異なる絵本を使いますね。担当者にもご意見をしっかりと伝えさせていただきます。

利用者 ありがとうございます。以上です。

利用者 参加対象が「小学生とその保護者」に制限されたイベントの告知を見て、内容に興味があり、参加したい、見てみたい、と思うことがあります。ちょっ

- と見学くらいしたいけど、参加できないな…、と悩んでいます。小学生のお子様に楽しんでもらうものだから、仕方ないなとも思いますが…。
- 図書館** お子様に向けて読書支援活動をされている方に関しては、個別に相談していただきたい、と思います。
- 利用者** 小学校で図書開放をやっていて、イベントの参考に見てみたい、というのがあります。
- 図書館** 平和台ブックスタートの会でも活動されていますし、参加者ではなく、見学者として加わってもらふ、というのはあってもいいのではと、考えます。必ず参加できる、というお約束はできませんが、前向きに検討させていただきます。
- 図書館** もちろん子ども達優先で、イベント会場のキャパシティーにもよるとは思いますが、お気軽にご相談ください。活動に活かされれば、とてもいい循環になると思います。
- 利用者** そうですね。ありがとうございます。
- 利用者** イベントのお願いです。学校の宿題で、スマホ・PCで検索すること自体は悪いことではないと思いますが、そこに付け加えて、図書館で書籍を加えて調べ物をするという習慣・発想が、若い世代の頭の中にないということに危惧を覚えています。私自身の経験からも確かにスマホは便利だと思います。ただし図書館で背表紙を見ながら、実際に本を手にとりページを繰りながら、整理された多様な情報に触れる機会・習慣があった方がよいと思っています。そういうことを知ってもらふイベントの開催を望みます。実際に塾の生徒に対し、夏休みに図書館に行って本を借りておいで、と促すことがあります。つまりどんな本を借りてくればいいのか、と考えること自体が学習だと思うのです。そこらへんのところが、今はスマホでピヨッピヨッと答えが出るという意識が強すぎるのではないかと…。
- 図書館** （高校生参加者に）やはりそういう状況ですか。
- 利用者** なんでもかんでも、わからなければスマホで調べますね。
- 利用者** 便利なスマホの情報が本当に正しいのかどうか、という視点は必要だと思います。対して本の情報はたくさんフィルターがかけられている分、正しい可能性が高いですね。スマホは簡単に答えが出るけど、正しい情報ばかりではないよ、ということを認識してやっているかどうかというのを、我々は中高生がスマホを使っている姿をみて思うんですよね。図書館にある本で調べものをする意味っていうのは、正しい情報の中から、自分がほしいものを見つける、ということであるのがより伝わるといいな、と思っています。図書館の図鑑、辞書で調べものをするというのは、正しい情報をもらえる、というイメージがより伝わるいいと思います。
- 利用者** 根拠は何か、いつだれが言ったのか、という情報が図書館の本には全て入っているのです。そういうものにアクセスする気持ち・ノウハウを持ってもらいたい。例えば課題のレポートを作成する場合でも、図書館に行つて、並んで

いる本の背表紙を見ているだけでも、これはこっちの方が今大事な話題になりそうだな、とかイメージとしてつかめる。あのスマホの平板な画面の中の情報だと難しい。それは情報リテラシーの教育につながっていくと思うんだけど…。そういう機会をイベントで実現してほしい。

図書館 （高校生参加者に）スマホで調べて、図書館にも足を運んでということは今までありましたか。

利用者 スマホでほとんどが完結しているけど、サイト2〜3個を見て、言ってることが真逆だからおかしくないか、と思って、図書館に来たことは1〜2回あります。

図書館 真逆のどちらかは、本に書いてあって、どっちかを採用したのかな。

利用者 はい。まあ、本に書いてあった方がいいのかな、とそちらを採用しました。

図書館 ご意見をくださった方は（生徒さんの反応は）いかがでしょうか

利用者 私がそれを日頃言い続けているから…。それがどの程度本人たちに浸透しているのか…。確かにスマホ検索は便利なんです。これはこれで大事なことです。ただし、それとは別に、こういった空間（図書館）がなぜあるのか、というのを考えてもらいたい。大事な知的空間なんですよ。

図書館 それを伝えられる行事なり取組が求められている、ということですね。

図書館 情報リテラシーに関するイベントについては、やはり専門家の意見が必要だと感じます。まずは講師の選定からスタートしたいと思います。それとは別に調べものについては職員にいつでも聞いてきてください。ネットより時間がかかるかもしれませんが、たくさん出せます。いつでも聞いてきてください。

利用者 そこで図書館の方々に伺うってということもとても大事。行ってから無いな、で終わるのでなく、そこにいる人に聞くというもう一つのアクション、それが大事。（出席している）彼らがどうということではなく、一般的に（若い世代に）その姿勢がない。

図書館 カウンターに気軽に聞ける取組・工夫、変化が必要なのではないかと思います。

（高校生参加者に）カウンターで忙しそうにしていたら、聞きたくても声をかけづらいよね。そんなことはないかな。

利用者 …。

利用者 それ以前の問題だと思う。イベントは言うは易し、組み立ては大変だと思うが…。いま周りを見ても、本を読んで情報に触れている方がたくさんいる。一方でそれとはまったく縁のない方たちもすごくいるんだろうなあ、と思うと、とてももったいないと思う。大事な知的空間である図書館に中高生あたりをいざなえる何かがあったらいいな、と思う。さっき児童館の館長さんがおっしゃったように、話し声の問題など、色々片付けないといけない問題は出てくると思うけど…。

利用者 いま児童館に来てくれている中学生の中には、図書館の勉強するスペースを利用させてもらっている子たちもいます。でも来館してもらわないとどういう所かわかならない。まず足を運んでもらうきっかけが何か必要ですよ。中高生世代であれば、中高生世代に…。今だと勉強しているコーナーを子ども達

は一番よく知っていて…利用している…、ということは、そこに図書館のスタッフの方が「何か調べものがあったら聞いてね」ということが出来ている状況を彼らに示すことができると、「そういうことをしていいんだ」と思う。そうするとスタッフとも顔見知りになる、1階に居ても声を掛けるようになる。人のつながりの流れみたいなものは、児童館だとそういう風な形で、来てもらったところからのスタートとなる、という意識で取り組んでいます。あと先ほどおっしゃっていた特徴をつくったほうがいい、というのは貴重な意見ですね。私達児童館にもいえることですね。来てもらうのは本当に難しいんですよね。

図書館 図書館職員が館内でガラガラとカートを引いて青少年世代におすすめの資料を案内するのはどうか、というアイデアを以前青少年サービスの担当職員と相談したことがあるのですが、来てもらって終わりではなく、こちらからさらに働きかける工夫・姿勢がやはり必要なんだな、と今のお話を伺い強く思いました。

利用者 わたしと思うに、こういうところに参加できる、この高校生たち。その気持ちだけで、彼らは完全に第一歩二歩を踏み出していると思う。本当にすごいと思う。興味があるものはなんだろうね、でもとりあえず見てみるか、という気持ちになれるのがすごい。

図書館 ぜひこれからも来てください！青少年のイベントもぜひ参加ください。

6 平和台図書館長挨拶

本日集まってくださった皆様も、今後も地域交流のスペースとしてこのロビーを活用しながら、柔軟な企画を考えてまいりますので、ぜひ平和台図書館をご利用ください。よろしくお願いいたします。本日はご参加ありがとうございました。

〔第二部終了〕